

ロボット導入における補助金活用の流れ

(ものづくり補助金・事業再構築補助金・中小企業省力化投資補助事業)

## STEP 1：補助金制度の選定

まず、自社の事業内容やロボット導入の目的に適した補助金を選定します。

- **ものづくり補助金**
- **事業再構築補助金**
- **中小企業省力化投資補助事業**
- **その他補助金制度**

### ➔ 選定ポイント

- 導入目的（生産性向上 / 業態転換 / 省力化）
- 補助率・補助上限額の確認
- 事業計画に合致するかどうか

---

## STEP 2：事業計画の策定

補助金申請には、導入するロボットの目的や効果を明確に示す必要があります。  
事業計画書を作成し、以下の要点を整理します。

- ✓ **現状の課題**（例：人手不足、作業効率の低下）
- ✓ **ロボット導入の目的**（例：生産性向上、人件費削減）
- ✓ **導入機器の仕様・価格**（見積書を取得）
- ✓ **導入後の効果・収益予測**（業務改善の具体的なシミュレーション）
- ✓ **資金計画**（自己資金の割合・金融機関からの借入予定など）

### ➔ ポイント

- 審査の加点要素（環境配慮、地域貢献、DX化 など）を盛り込む
  - 具体的な数値で効果を示す（例：生産性 30%向上、コスト 20%削減）
-

## STEP 3：補助金申請

選定した補助金の公募期間に合わせて申請を行います。

申請は電子申請(jGrants など)が一般的で、必要書類を揃えて提出します。

### ☑ 提出書類

- 事業計画書
- 会社概要
- 導入予定機器の見積書・仕様書
- 財務諸表
- 認定支援機関の確認書（必要な場合）

### ➡ ポイント

- 締切間際ではなく余裕を持って準備
- 専門家（認定支援機関・中小企業診断士など）に事前確認してもらう

---

## STEP 4：審査・採択結果の通知

申請後、審査が行われます。

審査では、事業計画の合理性や実現可能性が評価され、採択結果が通知されます。

### ☑ 審査の評価基準

- 事業の独自性・競争力
- 経済的な波及効果
- 収益性・持続可能性
- 環境配慮・DX 推進の要素

### ➡ 採択後の対応

- 交付申請を行い、補助金の正式な交付決定を受ける
  - 交付決定を受けるまでは、発注・契約はできないため注意
-

## STEP 5：ロボットの発注・導入

交付決定を受けたら、ロボットの発注や工事を開始します。  
この段階では、スケジュール通りに導入を進め、記録を残しておきます。

### ☑ 導入プロセス

1. メーカー・ベンダーと契約締結
2. ロボットの発注・設置工事
3. 試運転・調整

### ➡ ポイント

- 納品・稼働の証明書類（納品書・領収書など）を必ず保管
- 事業計画通りに進める（計画変更がある場合は事務局に相談）

---

## STEP 6：実績報告

ロボットの導入が完了したら、補助金の受給に向けた実績報告を行います。  
事務局に対し、事業の成果を証明するための書類を提出します。

### ☑ 提出書類

- 事業実績報告書
- 納品書・請求書・領収書のコピー
- 事業の成果（導入後の改善データや写真）
- 銀行の振込証明書（支払い証明）

### ➡ ポイント

- 期日を厳守（遅れると補助金が支給されない可能性あり）
  - 不備があると追加資料を求められるため、確認を徹底
-

## STEP 7：補助金の受給

実績報告が認められると、補助金が指定口座に振り込まれます。  
通常、実績報告から数ヶ月後に入金されることが多いです。

### ☑ 注意点

- 補助金は後払いのため、資金繰りを事前に計画
- 事業終了後、一定期間（例：5年間）は定期報告を求められる場合あり

---

### まとめ：補助金活用の成功ポイント

- ✓ 早めの情報収集と制度の理解
- ✓ 審査ポイントを意識した事業計画の作成
- ✓ 専門家のアドバイスを活用（認定支援機関・コンサルタント）
- ✓ スケジュールを守り、必要書類を適切に管理

※本フローは参考例であり、補助金制度ごとに申請手続きや要件が異なる場合があります。最新の公募要領や公式情報を必ずご確認ください。